
増上慢（ぞうじょうまん）

猫目石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

増上慢ぞうじょうまん

【Nコード】

N8551S

【作者名】

猫目石

【あらすじ】

鬼女しひと、裏陶うらたえの鬼術により甦よみがえった悲劇の巫女、桔梗。

死人の桔梗を旅の僧しひと、晴海が付け狙う。

晴海は強引に魂縛術こゝろばくじゆを桔梗にかけ成仏させようとするが……。

(来よ・・・来よ・・・集い来たれ・・・我が許へ・・・)

桔梗は川の岸边に立ち元結を解いた。

腰よりも長い見事な黒髪が夜風に揺れる。

水面を照らすのは半月よりは丸い“更け待ち月”。

夜も随分と更けてから出る月。

それ故に古から、そう呼ばれる。

満月ほどではないが、闇を照らすには充分な月明かり。

桔梗の求めに応じて死魂虫が寄り集まってくる。

闇の中、朧な光を発して集まる死魂虫と彼らが捕らえてきた死人の魂“死魂”。

その光景は怖ろしさよりも寧ろ幽玄な儀式のようにさえ見える。

嬉々として桔梗に従う死魂虫たち。

集められた“死魂”は桔梗の体内に納められる。

鬼女“裏陶”によつて霊骨と墓土から甦った桔梗。

桔梗は、かごめの前世である。

今生のかごめの魂から分離した前世の記憶を持つ桔梗の魂。

その体は“裏陶”が作った骨と土のまがい物。

あの世から、無理矢理、召還した桔梗の魂を繋ぎとめておくだけの単なる器に過ぎない。

生身の身体ではない。

当然、温かい血は通っていない。

思い通りに体を動かすには魂で満たしておかねばならない。

だからこそ、桔梗は“死魂”を集める。

僕となつた“死魂虫”を使役して。

「憐れな女の死魂たち・・・私とともに来い。共にあれ。お前たちの無念の思いが・・・私に力を与える。」

(犬夜叉・・・もうすぐ迎えに行く・・・)

桔梗が、心中、秘かな決意を固めていた時。
ガサツ・・・

物影にざわめく人の気配。

また、あの僧か。

・・・しつこいな。

私は、この村の者に、イヤ、人に害を為す気などないのに。

昼間、桔梗が、子供達と連れ立っている際に旅の僧が話しかけてきた。

曲りなりにも人に教えを垂れる身なのだろう。

気弱そうな弟子を、一人、伴っていた。

晴海とか呼ばれていたな。

私を生者ではないと見破った眼力は中々の物だが其処までだ。

あの僧は独善の気が強い。

己の狭量に囚われる余り、他者の心情を無視する傾向がある。

そうした性情が、あの僧の人相から、言動から、ありありと見て取れた。

まるで何かを睨みすえているかのようなギョロリとした目。

その癖、黒目は小さく白目の部分が大きい。

眉は目にへばり付くように位置していた。

ひしゃげたような低い鼻に高い頬骨。

反つ歯のせいだろう、前歯が口許からはみだしていた。

それら全てが相俟って、一旦、言い出したら聞かない頑固な気質を物語っている。

物影に潜んで此方の様子を窺っていたのだろう。

僧が月明かりの中に姿を現し話しかけてきた。

「成仏できぬのか？」

「巫女どの、おぬし・・・死人しにんであろう？」

「・・・・・・・・」

「見逃してはもらえませぬか」

「そうはいかぬ！」

僧は言い捨てると同時に竜玉（竜が絡みついた玉）を取り出し桔梗を法力で縛り付けた。
竜玉から飛び出してきたのは仏法を守護すると云われる護法竜。

「我が魂縛術から逃れられはせぬ。成仏せよ」

魂縛術こゝろばくじゆ、その名の通り魂を法力で縛り付ける法術。

荒々しい力任せの問答無用の術。

相手の言い分など聞こうとはしない。

こ奴、僧兵上がりか？

法力で作り出された竜の体がギリギリと桔梗を縛り付ける。

「くっ……」

(何と乱暴な……こ奴は、何時も、こんな風に妖怪や死霊を祓はら……ってきたのか?)

「このまま昇華せよ。おぬしの魂、救ってしんぜる」

僧の思い上がった言葉が桔梗の怒りを爆発させた。

「救う……だと……? おまえ如きが……」

「この私を救うだと!?!」

桔梗の怒りが靈力を発動させた。

同時に法力返しが!

原理は呪い返しと同じ事。

相手に放った攻撃の力が、そっくりそのまま、自分に戻ってくるのだ。

法力で作られた竜の体が桔梗の靈力によって瞬時に破壊された!

その一部、竜の前足が僧の喉許に喰い込む。

ドッ!

ガツクリと膝を着き倒れ付す僧。

ドサツ・・・コロロ・・・

掲げ持っていた竜玉が、投げ出された。

法力が破られたせいだろう。

パン！と音を立てて竜玉が割れた。

師匠が倒されたのを見て付き従っていた弟子が逃げていく。

これ程、容易くはね返されるような法力で私に挑んでくるとは。

貴様如きの法力で私の霊力を抑えられるとでも思ったのか。

私の魂を救うだと？

思い上がりも甚だしい！

凶に乗るな！

貴様のような一知半解の仏僧に私の何が理解できるといふのか。

力任せの除霊しか知らぬ半端者に。

私の怨みを、悲しみを。

何一つ事情も知らぬ癖に凶々しくもしゃしゃり出てきて『成仏せよ』

だの『昇華せよ』だの。

愚か者め、関わらねば死なずに済んだものを。

近付いて見れば、まだ息があつたのか。

僧が、私の足を掴んだ。

虫の息で最後の言葉を吐く僧。

「何を・・・しようとしている・・・？ 生きている者たちは・・・
新しい時を刻んでおる・・・だが・・・死人のおぬしの時は・・・
止まっている・・・決して・・・交わることはできぬと云うのに・・・
・憐・・・れ・・・」

それきり事切れた僧。

憐れだと・・・？ この私が・・・

それは貴様如きが決めるべき事ではない。

無理矢理、目覚めさせられ、この世に連れ戻された私。

その私を、又も、無理矢理、あの世に戻そうなどと。

生きている時は巫女として抑えねばならなかった諸々の感情。

だが、死人である私を縛る柵しがらみは無い。

今度こそ私は自分のしたいようにする。

我が感情の赴くままに。

心残りは小夜の事。

もう、逢う事もないだろう、行きずりの村の少女。

妹の楓のように私を慕ってくれた。

ほんの一時だが、懐かしい昔を思い出させてくれた。

すまない・・・怖い思いをさせてしまった。

それでも、名を呼んでくれた。

「桔梗・・・さま・・・」

「さようなら・・・いじめんね」

「・・・」

闇の中に溶け込むように去っていく美しくも哀しい巫女。

そんな桔梗を少女は一人静かに見送った。

【増上慢ぞうじょうまん】

？仏教用語のひとつ。まだ、悟りを得ていないのに、悟りを得たと

思おこって驕おこり高たかぶること。また、その人。
？自分の力を過信して付け上がるあること。また、その人。

【僧兵】武器を持ち戦闘に従事した僧形の兵。延暦寺、興福寺などの僧兵が有名。

了

2009・1/7（水）作成

猫目石

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8551s/>

増上慢（ぞうじょうまん）

2011年7月9日04時55分発行